

講座報告
モグラの勉強会
佐々木彰央



骨格標本作製の実演

1月15日にふじのくに地球環境史ミュージアム1階のミドルヤード「骨学教室」でNPO主催のイベント「モグラの勉強会」を開催しました。当日の参加者はその場に居合わせた来館者と静岡大学の学生、駿河ほねほね団のメンバー、ミュージアムサポーターなど合わせて20名ほどです。

まずはじめに、佐々木から「世界にはどのようなトガリネズミ目が生息するか」、「トガリネズミ目の種数が北海道よりも静岡県で多い理由」、「トガリネズミ目とハリネズミ目を調査する方法」、「県内のトガリネズミ目の生きている時の様子」をスライドと動画を使い紹介しました。次に駿河ほねほね団のメンバーによる骨格標本作製の実演と解説、そして静岡大学の学生から骨格標本作製して気が付いたことについての発表がありました。最後に「骨格標本ライブラリ」を紹介すると共に、実際に野外に落ちていた動物の骨の種名と部位名を調べてもらいました。

参加者からは「このような勉強会を定期的におこなってほしい」、「製作者の話しが直接聞けて良かった」、「骨一つひとつにラベルが付いていたので調べやすかった」などの意見や感想を頂きました。そのため、今後も定期的に来館者と共に行う勉強会を開催したいと考えております。以下に発表者である静岡大学学生3人の感想文を掲載します。



静岡大学生の発表を聞く参加者

大原峻太郎：勉強会の発表の準備をする際、動物の肢の骨の構造についてよく調べました。改めて骨の構造を調べることで、骨格標本作製を行うときに観察した骨格の構造と一般的な知識が結び付き、肢の骨に対する理解がさらに深まりました。自分自身も良い勉強になりました。発表では、骨格標本作製でのミスをいくつか挙げましたが、またモグラの骨格標本の作製を行うことがあれば、それらを反省して、出来る限り理想的な状態の骨格標本作製していきたいと思えます。

高橋翔哉：私はモグラの骨格標本作った時の様子を紹介しました。聞いてくださる多くの方は、骨格標本の作製に関して未経験のため、どうすれば分かりやすく伝わるかを工夫しました。そのため、標本を持って作業が難しかったところなどの説明をしました。私自身興味深い話を聞くことができ、たいへん勉強になりました。

池谷拓真：本勉強会では、私が取り組んだオオバンの骨格標本作製について説明させていただきました。生き物は目で見て姿を楽しむのも良いですが、その行動や生態について詳しく調べるためには、まずその種の身体がどのような構造をしているのかをよく知る必要があると考えています。今回は来館者の方からたくさんのご質問をいただいたことで、作製時には気づかなかった新しい発見に出会うことができ、大変良い経験となりました。